

2020年8月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 8月えんだより

8月の聖句 『主はすぐ近くにおられます』

<フィリピの信徒への手紙第4章5節>

長雨が終わり、朝からセミの鳴き声が聞こえますと、夏が来たことを実感します。今年も全国各地で豪雨災害による甚大な被害に遭われ、コロナ禍の中で更に傷ついた方々を心に覚え、被害に遭われた人々の一刻も早い復興を祈ります。園では、通常保育が再開されて1ヶ月が過ぎ、子ども達も少しずつ生活のリズムが身に付いて、落ち着いた日々を送り始めています。暑い夏ですが、遊び方も工夫をしながら、夏の遊びを楽しんで過ごしたいと思います。

「こんなことになるなんて、思いもしなかったですね」と地域の方々と再会し、会う度にこの言葉を耳にします。一旦収束しつつありましたが、毎日増加する感染症拡大の情報に、「正しく、恐れましょう」と言われても、明日は我が身ではないかと不安や恐れを抱くことは否めないのではないのでしょうか。

「どんなことにも、思い煩うのはやめなさい。感謝を込めて祈りと願いをささげ…」と聖句はいいです。思い煩うことはすべきではない、そして何事につけ、感謝を込めて祈りと願いを捧げましょう、と言われても、見えないことや未知の世界は、不安を感じざるをえません。特に子ども達の心や身体がどうなるのか？と不安を抱くのも当然のことだと思えます。

しかし、コロナ禍の中で、子ども達も私達も言葉に出さずとも、非日常の出来事から多くのことを耳にしながら、感じて学んでいることがあるのではないかと思います。誰かが支えてくれていること、自分でできることは何かを考えて歩むこと、自分の身を守ることや他者も大切にすること、必ず変わると信じて希望を抱くことや絶望しないこと、そして何よりも一生懸命に命を守るために頑張る家族の方々、そして自分の周りの人々に対して感謝の思いを感じているのではないのでしょうか。

人は苦境に立たされた時に見えてくることがあります。それは目で見えるというよりも、心で感じることもかもしれません。真実なこと、正しいこと、愛すべきこと、そして、今こうして命を与られて生かされていることを感じる時に、命を与えて下さる神様に感謝せずにはいられません。終戦から75年が経ちます。多くの方々の犠牲と命の引き換えに平和が与えられました。コロナ禍にあっても、人知を超える神様の平和が皆さんと共にありますように日々祈ります。

年主題聖句 「喜びと平和とであなたがたを満たす」

<ローマの信徒への手紙 15章 13節>

8月	乳児(0,1,2歳児)	幼児(3,4,5歳児)
月主題	たのしい	たのしむ
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 夏の生活をゆったり健康に過ごす。 * 周囲の人や物とふれあい、興味を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 平和を考え、願い、共に祈る。 * 家族や保育者とゆったりとした時間を過ごす。 * 夏の遊びを大胆に楽しむ。
讃美歌	うみでおよぐ 幼児讃美歌I 23	